

日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA



ライブチッヒでゲヴァントハウス・オーケストラと「急の曲」(作曲・三木 稔)を共演中の日本音楽集団

これだけ豊富な邦楽器群のアンサンブルが鳴動する時、洋楽とは全く違った音色と響きで人々を興奮の^{るつば}に巻き込んでしまうのである。
(音楽評論家・富樫 康)



ごあいさつ

代表 長沢勝俊

1964年11月、日本音楽集団の第一回定期演奏会が東京で行なわれました。この演奏会は同年4月「私達の伝統楽器で現代に生きる音楽を創ろう」という旗印のもとに、流派を超えて集まった14名により結成された日本音楽集団の音を世に問う第一声であったわけです。

それから20余年、当初にかかげた命題を自らに問い続けながら、多面的な活動を幅広く精力的に展開してまいりました。

これもひとえに集団を支持し激励して下さった多くの皆様のお力添えのたまものと、団員一同心より感謝している次第です。

現代邦楽の作品はまだまだ数が少なく、いわゆる十八番ものが要求されている現状です。あらゆる機会をとらえ再演することにより、演奏の質的向上を図り、レパートリーとしての定着に努力したい考えです。

個性豊かな邦楽器の合奏の分野には、まだまだ魅力ある組合せや、さまざまな表現があるはずだ。

ソロからゾリステン、そして大合奏という私達のかかげた壮大な旗印に恥じないよう、音楽創造の歩みを進める所存でございます。

今後ともよろしく御批判御指導を頂けますようお願い申し上げます。

日本音楽集団について

■その活動は、自主公演として、年間6回の定期演奏会(東京5回、関西1回)と、大々的な地方公演を行うほか、新人演奏会や特別演奏会を時に応じて開いています。そのほか、各地の鑑賞団体や公立文化施設からの依頼、小・中・高校生対象の学校公演、放送出演、レコード録音、映画、演劇・テレビ・ラジオの音楽担当等、年間100回以上の演奏により、広い分野で活発に活動しています。

■国内のこうした活動に加えて、現在まで13次に及ぶ海外公演も行ない、ヨーロッパ、アメリカ、ソ連、中国、東南アジア、オセアニア25ヶ国82都市において、160回の公演を数えております。

ゲヴァントハウス・オーケストラや中国中央民族楽団等各国の楽団や、アイザック・スターンやヨー・ヨー・マといった国際的なソリストとの共演も、数多く経験しています。



国内での主な公演地

〔北海道〕函館・札幌・旭川・下川・苫小牧・長万部・釧路

〔青森〕青森

〔岩手〕盛岡・遠野・釜石

〔秋田〕秋田・十文字・横手・大曲・角館・湯沢・能代・大館・鹿角

〔宮城〕仙台・白石

〔山形〕山形・米沢・上ノ山・天童・新庄・酒田・鶴岡・寒河江・長井

〔福島〕いわき・郡山・福島・白河

〔新潟〕新潟・上越・柏崎・新発田・村上

〔群馬〕高崎・前橋・軽井沢・桐生

〔栃木〕宇津宮・小山・大平・日光・栃木・足利・黒磯・佐野・藤岡・真岡

〔茨城〕水戸・つくば学園都市

〔千葉〕千葉・船橋・茂原・佐原・佐倉・君津・館山・松戸

〔埼玉〕大宮・上尾・浦和・坂戸・秩父

〔東京〕武蔵野・町田・福生・八王子

〔神奈川〕横浜・藤沢・小田原・川崎・茅ヶ崎・大磯・横須賀・大船・逗子

〔山梨〕甲府

〔静岡〕富士

〔長野〕長野・松本・諏訪・上田・飯山

〔愛知〕名古屋・豊橋・半田・春日井

〔岐阜〕岐阜・美濃・大垣・碧南・美濃加茂・関・各務原・土岐

〔富山〕富山・高岡・砺波

〔石川〕金沢・七尾・小松・松任・加賀・輪島

創立20周年記念演奏会で「秋のコンチェルト」初演ステージ。拍手に応える中村八大さん。



〔福井〕福井・武生・鯖江

〔滋賀〕大津・八日市

〔三重〕津

〔奈良〕奈良・天理

〔和歌山〕和歌山

〔大阪〕大阪

〔京都〕京都

〔兵庫〕姫路・神戸・相生

〔岡山〕岡山・総社・井原・津山

〔鳥取〕米子・倉吉・鳥取

〔島根〕松江・益田・浜田

〔広島〕広島・福山・府中

〔山口〕下関

〔香川〕高松

〔徳島〕徳島

〔高知〕高知

〔愛媛〕松山・今治・宇和島

〔福岡〕福岡・大牟田・北九州・柳川・久留米

〔大分〕大分

〔熊本〕熊本・阿蘇一の宮・下益城城南

〔宮崎〕宮崎・延岡・日向・都城・高千穂

〔長崎〕長崎・佐世保・諫早・福江・大村・島原・五島

〔佐賀〕佐賀

〔鹿児島〕鹿児島

(61年現在)

学校公演で生徒から花束を贈られる。



世界82都市におよぶ海外公演



■第1次 (72年9/14~10/23)

ベルギー・西ドイツ・チェコスロバキア・オーストリア・ユーゴスラビア・ブルガリア・ルーマニア (17都市・19公演)

■第2次 (74年11/25~12/17)

インドネシア・ベトナム・フィリピン (4都市・17公演)

■第3次 (75年2/27~3/13)

オーストラリア・ニュージーランド (8都市・8公演)

■第4次 (76年2/15~3/21)

カナダ・アメリカ (17都市・24公演)

■第5次 (78年8/29~10/26)

東ドイツ・ギリシャ・イギリス・ルーマニア・チェコスロバキア・カナダ・アメリカ (20都市・27公演)

■第6次 (79年7/9~7/23)

アメリカ(ハワイ州)(6公演)

■第7次 (80年1/6~1/24)

タイ・インドネシア・フィリピン (6都市・12公演)

■第8次 (81年11/8~12/6)

東ドイツ・イタリア・イギリス (12都市・14公演)

■第9次 (82年10/19~10/23)

香港 (3公演)

■10次 (83年3/4~3/13)

中華人民共和国 (2都市・5公演)

■第11次 (83年7/17~7/30)

フィンランド (4都市・7公演)

■第12次 (84年3/12~3/17)

中華民国 (2都市・3公演)

■第13次 (84年9/23~10/20)

ソヴィエト・東ドイツ・フランス・フィンランド (7都市・15公演)

以上、計25ヶ国・延べ100都市・160公演

日本音楽集団の沿革

- 1964年 4月、同人14名をもって創立。11月17日、第1回定期演奏会を開く。
- 1967年 **第6回定期演奏会の成果により芸術祭奨励賞受賞。** 団外への作曲委嘱を始める。
- 1968年 定期演奏会以外の依頼演奏会始まる。
- 1969年 初レコード発売される。野坂恵子・三木稔が共同して二十絃箏を開発。地方公演始まる。この年から継続して文化庁助成を受ける。
- 1970年 **4枚組レコード「日本音楽集団による三木稔の音楽」(日本コロムビア)が芸術祭大賞受賞。** 芸術祭主催公演に出演。
- 1971年 **日本音楽集団演奏による三木稔作曲「阿波の子タヌキ譚」(四国放送)と、安達元彦作曲「邦楽器のためのシャコンヌ」(NHK)がそれぞれ芸術祭優秀賞受賞。** 夏期合奏研究会(後に「夏のアカデミー」と改称)を始める。
- 1972年 研究団員制度開始。
- 1973年 芸術祭主催公演を単独で行う。学校公演始まる。

音楽之友社賞受賞式での晴れやかな笑顔(右から、田村拓男、長沢勝俊、三木稔)



- 1974年 芸術祭祝典演奏を単独で行なう。
- 1975年 作曲公募を始め、日本音楽集団作曲賞制定。
- 1976年 機関誌「邦楽現代」を発刊。NHK連続テレビドラマ「鳴門秘帖」の音楽を1年間拍当(作曲・三木稔)。
- 1977年 芸術祭祝典演奏を二期会と行なう。
- 1978年 **第2回音楽之友社賞ならびにレミー・マルタン音楽賞を受賞。**
- 1979年 創立15周年記念演奏会を2夜連続で行なう(49・50回定期)。
- 1981年 ライプツヒ・ゲヴァントハウス・オーケストラ 200年祭で同オケとの共演により三木稔作曲「急の曲」を世界初演する。
- 1982年 芸術祭主催公演で「急の曲」日本初演を含む「鳳凰三連」を、読売日本交響楽団と演奏する。
- 1983年 ゲヴァントハウス・オーケストラ来日公演に同行し、「急の曲」を各地で共演する。
- 1984年 創立20周年記念演奏会を6回シリーズで行なう(82~87回定期)。芸術祭祝典演奏を東京混声合唱団と行なう。
- 1985年 後援会ニッポニア・メイツ発足。つくば科学博「日本の日」ほか出演。文化庁芸術祭主催による初めての地方公演である熊本公演を行う。
- 1986年 3月現在 歌舞伎・市川猿之助「ヤマトタケル」の音楽を担当(作曲・長沢勝俊)。定期演奏会は92回を終了し着々と100回目を目指すほか、中国地方演奏会等全国での活発な活動が予定されている。

代表 長沢 勝俊
副代表 坂田 誠山
運営委員 奈良 義寛(局長)
事務局長 霜島 素子
監事 芹沢 英雄

畦地 慶司(胡弓・作曲)
野口美恵子(三味線)
太田 幸子(三味線)
加藤 洋(三味線)
半田 淳子(琵琶)
田原 順子(琵琶)
坂井 敏子(箏・三味線・胡弓)
白根きぬ子(箏) 在ロンドン
吉村 七重(箏)

黒坂 昇(打楽器)
細谷 一郎(打楽器)
田村 拓男(指揮・打楽器)
稲田 康(指揮)
長沢 勝俊(作曲)
内田とも子(作曲)
中島 隆(楽器係)

島崎 春美(箏)
佐藤由香里(箏)
久東 寿子(箏)
中野はるな(箏)
桜井 智永(箏)
安武由香理(箏)
前田 文男(打楽器)

団員連名

〈正団員〉

望月 太八(笛)
西川 浩平(笛)
宮田耕八朗(尺八・笛)
坂田 誠山(尺八)
三橋 貴風(尺八)
福田 輝久(尺八)
田嶋 直士(尺八)
藤崎 重康(尺八・笛)
竹井 誠(尺八・笛)
米澤 浩(尺八)
素川 欣也(尺八)

花房はるえ(箏・三味線)
宮越 圭子(箏)
木村 玲子(箏)
内藤 洋子(箏)
滝田美智子(箏)
熊沢栄利子(箏)
尾崎 太一(打楽器)
藤舎 成敏(打楽器) 休団中
堅田 啓輝(打楽器)
高橋 明邦(打楽器・指揮)

〈準団員〉

水谷 雅康(尺八)
水川 寿也(尺八)
蓑田 司郎(三味線)
田中悠美子(三味線)
工藤 哲子(三味線)
山田まゆ美(琵琶)
山村 美子(琵琶)
佐藤 里美(箏)
内藤 久子(箏)
大島菜穂子(箏)

〈研究団員〉

山田 明美(箏)

〈特別留学生〉

杜 菊衷(胡弓)

名誉団員 山田美喜子
協力団員 伊藤 惣一
地方在住団員 塚本 早苗
田嶋恵美子

昭和61年4月現在

日本音楽集団

〒151 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302 ☎03-378-4741(代)